

# あきたの 地域医療通信

2018年9月 第31号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課  
医師確保対策室



2016年に県南の美郷町で「みさと在宅診療所」を開業し、在宅医療に取り組まれている佐藤浩平先生にお話を伺いました。

## Q1. 医師を志したきっかけは？

**A.** 実家が開業医ということもなくこれといった理由はありませんが、曾祖母が自宅で看取りされたこととおぼろげながら覚えており、その記憶の欠片がきっかけなのかもしれません。

## Q2. 自治医科大学、卒業後の地域勤務について

**A.** 自治医科大学は元々、地域医療の充実を目的として設立された大学でした。現在地域医療に携わることになったのは自治医科大学で学んだことが影響していると思います。また、学費面での優遇がある代わりに、卒業後地域勤務が義務付けられていることは入学当時はあまり考えておらず、在学時に先生やOBの方たちの話を聞くようになってから意識するようになりました。

地域勤務としての最初の赴任先は秋田県内陸部の過疎地域にある小さな病院でした。病院には医師が3名しかおらず、週に一回程度往診がありました。雪深い中を運転手さんとふたりで、往診車がスタックしたときのためのシャベルを車に積んで山奥の患者さん宅に行ったことは今でも忘れることができません。病院で外来だけをやっていては見えない「生活者としての患者さん」を目の当たりにすることになり、医師になって間もない自分にとっては驚くべきことでした。

## Q3. 在宅医療に進まれたきっかけは？

**A.** 9年間の地域勤務の義務が終了し、当時勤務していた病院にいらしていた先生が、秋田市で往診クリニックを立ち上げた先生でした。在宅での患者さんが増えたためその先生も一緒に在宅医療をやってくれる医師を探していました。はじめは「在宅」という見知らぬ分野に不安も覚えました。在宅療養支援診療所の制度ができ、厚生労働省も在宅に舵を切ったということもあり、在宅医療の重要さが増してくると考え在宅医療の分野に進むこと



みさと在宅診療所 院長 佐藤 浩平 先生

## 【プロフィール】

秋田県大仙市出身。自治医科大学卒業後、秋田県内病院での勤務を経て、平成28年7月より「みさと在宅診療所」を開業

にしました。それまでの秋田県にはない新しい分野であったため不安はありましたが、自分の専門である外科はある意味オールマイティという側面もあるので、なんとかやっていけるかもしれないという漠然とした希望もありました。

## Q4. 在宅医療について

**A.** 正直なところ最初は雲をつかむような状態で、何をやっていいのかわかりませんでした。病院では病気を早く見つけて悪くならないうちに治すというのが基本的な方向性ですし、患者さんもそれを望んで病院に来られます。ですが「在宅」においては必ずしもその力学が働きません。「治療や検査のために病院へ行きませんか。」と言っ

でも、「病院にはもう行きたくない、先生頼むから家にいさせて下さい。」と病院での治療を希望しない患者さんもいます。こういった人たちのために在宅医療は必要なんだなと思います。

現在在宅での医療は医療機器の発達により入院に近い水準までできるようになりました。抹消点滴はもちろんのこと、酸素吸入や経管栄養や中心静脈栄養、気管切開や人工呼吸器の管理も家に居ながらにして行うことができます。状態を維持していくことに関しては入院中にできて、在宅で出来ないことは特殊な例を除いてそんなに多くありません。特に高齢者の場合は患者さんが望めば大体のことは在宅でできるようになっています。

自分の専門は外科ですが、在宅医療でも専門知識は生かれます。在宅で手術こそ出来ませんが、術後管理の知識は全身状態の維持に活かれますし、寝たきりの高齢者にできやすい褥瘡のデブリードマンや創処置も外科の経験が活かれます。何より在宅で最期の瞬間まで過ごしたいと思っている癌末期の患者さんへの対応は、癌に関わる全ての診療科の知識と経験が役に立つと思います。また在宅では主治医が対応できない出来事も多く、眼科や皮膚科、精神科、整形外科、婦人科そして小児科、と多科にわたってコンサルトが必要な場面もあります。訪問診療を行わない診療科であっても在宅でその専門性を活かしてもらえればと思います。

#### Q5. 医学生・研修医・若手医師へのメッセージをお願いします。

A. とにかく若いうちに多くの経験をしてほしいです。昨今は医師の働き方改革などが叫ばれていますが、それでも限られた時間の中で積極的に学んでほしいと思います。そこで得た経験は決して無駄になることはないし、特に研修医時代に経験したことほど後になっても覚えているもの

からです。診たことがあるかどうか、1と0の違いは大きいのです。

また患者さんの話をよく聞いてあげられる医師になってほしいです。特に在宅では「患者」という患者さん側のフィールドに踏み込むことになるため、イニシアチブは患者さん側にあり、第一印象が非常に重要になります。初めて顔を合わせたときに「ああ、このお医者さんはわたしの言うことをよく聞いてくれる人なんだ」と思ってもらえるかどうかで、その後の診療のやりやすさが大きく変わってまいります。

そして最後に、病院に勤務したとしても「在宅医療」という現場もあるということ覚えておいてほしいです。多くの患者さんと接していく中で、通うのが辛いので家で過ごしたいなどの相談を受けることもあると思います。その時に在宅医療の選択という引き出しがあればより柔軟な対応ができます。知識としてだけでかまいませんので頭の片隅に覚えておいていただければと思います。



みさと在宅診療所の外観（二階部分）

## 秋田県職員医師を募集しています。

秋田県内の自治体病院等で診療に従事していただける医師を県職員として採用します。

勤務期間は  
4年間で1単位

- ◎3年間は県内の自治体病院等に勤務
- ◎残りの1年間は希望する医療・研修施設において、有給の研修・研究が可能

ご連絡いただければ、  
直ちに資料を  
お送りします

お問い合わせ：秋田県健康福祉部医務薬事課医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号  
TEL：018-860-1410 FAX：018-860-3883 E-mail：ishikakuho@pref.akita.lg.jp

## 指導医講習会を開催しました

今年も7月6日(金)～7月7日(土)の2日間、大潟村のホテルサンルール大潟を会場に「第15回医師臨床研修指導医ワークショップ」を開催し、国立国際医療研究センター医療教育部の村岡亮先生、中京大学法科大学院の稲葉一人先生、宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座の吉村学先生などからご講義いただきました。また、参加者は積極的なグループワークやロールプレイを行い、指導医としての磨きをかけ、夜の交流会では、日頃の診療などに係る情報交換も行われました。



## 地域に寄り添う医師・医学生キャリアアップセミナーを開催しました

8月18日(土)に、自治医科大学学生、秋田大学医学部生及び県内で活躍する自治医科大学卒業医師等を対象とするキャリアアップセミナーを開催しました。

第1部の講演会では、香川県の綾川町国民健康保険綾上療所長十枝めぐみ先生に「診察室の向こう側～地域医療は楽しい!～」と題してご講演いただきました。

第2部のグループ討論・発表会では、「地域医療を支える医師に求められること」、「地域医療を支える医師のワークライフバランス」をテーマに討論し、様々な意見が出されました。

また、第3部の情報交換会では、食事をとりながら医師と医学生が、病院や大学、世代の垣根を越えて地域医療について話し合い、大変有意義なセミナーとなりました。



## イベントカレンダー

開催月日	名称	対象	場所	お問合せ先 (団体名/電話/メール)
10月 28日(日)	レジナビフェア2018仙台	医学生	仙台国際センター 展示棟展示室 (仙台市青葉区)	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 MAIL:ishikakuho@pref. akita.lg.jp
11月 16日(金) ～ 17日(土)	第12回レジデント スキルアップキャンプ 2018	初期研修医	サンルーラル大湯 (南秋田郡大湯村)	

## 秋田大学医局紹介

### 秋田大学大学院医学系研究科 麻酔蘇生疼痛管理学講座

当教室は1973年に開講され、1996年に西川俊昭が第3代教授に就任し現在に至っております。麻酔科関連業務(手術麻酔・ペインクリニック・集中治療・救急医療)を中心に秋田県の医療を支えています。未だ麻酔科医師が不足しており、その育成が最優先課題となっております。

麻酔科管理による手術症例は年々増加の一途をたどり、超低出生体重児から90才以上の高齢者までの患者さんが全身麻酔の対象になっています。特に重度の心疾患や透析患者など様々な合併症のある方が手術を受ける機会が増えており、当院は県内唯一の大学病院かつ特定機能病院として全県から紹介・搬送されてきます。そのため、求められる知識や技術は益々高度で複雑なものになり、最新海外雑誌の抄読会での情報共有や術前の症例検討が不可欠なものとなっております。

さらに臨床だけでなく、脳脊髄虚血障害に対する薬物効果に関する研究や全身麻酔・手術後の認知機能に関する基礎研究なども行っております。



一見地味な領域の仕事に見えるかもしれませんが、麻酔科は野球に例えると捕手として患者さんの生体管理を担い、チーム医療の要としての役割があります。研修医・学生の皆さん、将来の進路としてご一考いただければ幸いです。

### 問い合わせ先

秋田大学大学院医学系研究科  
麻酔蘇生疼痛管理学講座  
医局長 佐藤浩司

e-mail: rionmaru@doc.med.akita-u.ac.jp

Tel: 018-884-6175

HP: <http://www.med.akita-u.ac.jp/~masui/index.html>

構成: 麻酔科指導医・専門医8名、後期研修医11名

# 指導医メッセージ

能代厚生医療センター  
整形外科

久保田 均 先生



私事ですが、医師になり四半世紀が過ぎました。当時の研修医生活を振り返ると、2日間眠らず働いたとか、1週間家に帰っていないとか、そんな話(今では笑い話)がごろご

ろしています。ハラスメントなんて言葉もなかったです。当院は少人数制でもあり、研修医の人達が和気あいあい、のびのびと働いているのをみると隔世の感があります。しかし今の研修医は、当時の研修医だった私よりもはるかに高レベルの医療技術や知識を習得し、医師としてのキャリアを積み重ねていると思います。

その後、私は7つの区市町の8つの病院を渡り歩きました。その中で同門の秋田以外の先生方とも働くことができました。必ずしも絶対の正解がない医学の世界で、視点や考え方の違う人達と接したことは非常に良い経験となりました。当院にも岡山、九州からの研修医もおりますが、医師として働く初めての2年間に、他の職種の人も含め立場や文化の違う様々な人々と触れ合うことは貴重な体験になるのではと思っています。

## 研修医メッセージ

市立秋田総合病院  
猪股 拓海 先生  
(秋田大学・千葉県出身)



初期研修をスタートして数か月たちました。ここまでの研修期間、同期9人皆日々の研修をととても楽しそうに充実して送っています。市立秋田総合病院は指導医の先生方の指導がとても手厚く、小さいことでも質問しやすい環境であるため、検査の疑問や処方内容の根拠も気軽に質問できます。研修医が診察する夜間の救急外来にも上級医の先生

が一人必ずついてくださり診断や対処に困った場合も相談し、間違っている場合は修正、足りないところはアドバイスをもらい日々成長できる環境になっています。

診療科も豊富なため、様々な診療科の先生がその科の緊急対応が必要な疾患や対処法などについて講義もしていただき、廊下で質問しても答えてくださるなど、疑問を専門的な立場から知ることのできる環境です。

日々勉強になる症例も多く、先輩・同期と相談しながら学んでいける素晴らしい研修先だと感じて過ごしています。

是非一度研修医の生活・指導医の様子など見学にいらしてください。

MESSAGE



## 市立大曲病院

〒014-0067 秋田県大仙市飯田字堰東210 TEL : 0187-63-9100 HP : <http://omagari-hospital.sakura.ne.jp/>

市立大曲病院は、大仙市が設置した全国でも稀な精神科単科の市立病院です。昭和42年4月に旧大曲市角間川町に開設され、平成8年12月に大仙市飯田に新築移転し、現在に至っております。精神科病棟(70床)および認知症治療病棟(50床)を有し、外来診療は予約制をとっております。

当院は『精神医療発展のため研鑽に努め、地域住民のこころの健康と福祉に貢献する』との基本理念に則り、地域のニーズや時代背景に沿った医療を提供する体制づくりに取り組んでおります。

最近では、地域の高齢化に伴う認知症の増加を受け、秋田県に現在5名しかいない日本認知症学会専門医の内2名を中心とした認知症診療を行っております。定期的に市内の福祉施設と認知症関連の勉強会を開催するなど、各関係機関との連携に努めており、平成30年度からは大仙市の福祉事業である認知症初期集中支援事業に参画しております。また地域の総合病院への診療応援や、訪問看護、訪問診療などのアウトリーチ事業などにも力を入れているところです。

今後も、地域住民の皆様に精神医療を提供する公的病院として、地域生活の基盤を支え、地域の皆様に信頼される、なくてはならない病院を目指していきます。

### … お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号  
E-mail : [ishikakuho@pref.akita.lg.jp](mailto:ishikakuho@pref.akita.lg.jp) Tel. 018-860-1410

